

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**<学校の現状>**

〔よさ〕落ち着いた学校環境。組織的に取り組む教職員集団。部活動・ボランティア活動等に積極的な生徒。使命感に燃え、課題意識をもち、熱心な教師。

学校に協力的な保護者。心から学校を応援し、協力を惜しまない地域。

〔課題〕学習面では基礎・基本の定着が十分とはいえず、学習意欲の一層の向上が望まれる。

教師は指導・事務に多忙で、授業改善への取り組みも十分にとれない傾向がある。

保護者会への出席者が少ない。

<前年度の成果と課題>

○学校評価で「学校の雰囲気」が良くなったとの回答が62人(/324人)から123人(/325人)に倍増。しかし「分かる授業」のA・B評価の合計が21.8%に対し、C・Dの合計は78.2%。授業改善は今後も課題。

○全教育活動をとおりし道徳教育を推進するとともに、毎週の朝礼を通し、礼法やマナー、規範の大切さを指導する。話しを聞く態度・規律を守る態度・挨拶を中心に効果を得た。選択家庭科では、柔道室を和室に見立て和装と礼法学習を取り入れた。

○保護者・地域とともに歩む学校を前提とし、開かれた学校づくり協議会・PTAとの、全面的協働態勢を整える。毎朝の挨拶運動をはじめとしたPTA活動は積極的に活動できた。保護者会の出席率が平均22%である。授業参加の実施等、工夫とともに出席を呼びかける。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上**

○校内研修は、年間6回の他、授業改善プロジェクトチームを中心とした研究会を年間5回、その他自主研究授業等を含め11回の研究授業を実施。都や全国の各研究会参加者からは職員への報告をしている。

○言語活動指導では、国語科を中心とし、各教科でも言語活動をすすめるほか、構成的グループエンカウンター授業を各学年で実施し、生徒間の交流の在り方を指導した。

○家庭学習・放課後学習では、学習支援員を中心に毎週水曜日に「放課後学習教室」を学校図書館を活用し開室している。ほかに定期考査1週間前は毎日開室。

家庭学習指導については、各教科で課題としているが、第5回目の校内研修会では、「家庭学習の指導の在り方」をテーマに研究授業を行った。

重点的な取組事項－2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

○「事後の生活指導より、未然の生活指導を」を合い言葉に各学年で指導を進めた。毎週の朝礼では、無言入場・礼法の徹底を図り、規範意識の向上にあたってきた。生徒同士、生徒・教師間の交流を深化させる為の構成的グループエンカウンターやコーチングを導入し、エンカウンターについては研究授業を行った。

○「花と歌と挨拶いっぱい学校」を目指した。足立区花いっぱいコンクールには平成19年度から参加している。生徒会が呼びかけ、年6回のフラワーボランティア活動には毎回70名程度の参加があった。20

年度は「努力賞」、21年度は「優良賞」を受賞。合唱コンクールは、充実感を伴う行事として実施できた。挨拶指導については、毎朝、教員・保護者・生徒による挨拶運動を通年行ってきた。

- 教育相談態勢の強化・不登校生徒の登校復帰については、「悩み事アンケート」を年2回実施し、指定した教員と面談をとおり、その解決にあたってきた。スクールカウンセラー、子ども家庭支援センター、児童相談所、教育相談センターとは常時、連絡を欠かさず、本校コーディネーターを中心に教育相談委員会を中心に取り組んだ。

重点的な取組事項－3 教職員の専門性・資質・人間性の向上

- 教科・領域の授業研究については、年間計画に位置づけた研究授業の他、「相互授業観察週間」を設け、日々の授業の工夫・改善にあたった。新学習指導要領をふまえた授業改善として、先行実施をしている数学科で、新領域である「資料の活用」を題材に研究授業を2回行った。
- OJT推進担当を中心に11名の新規主任教諭で「学校の役割と使命」をテーマに生徒・保護者・地域からの期待や役割をテーマに「SWOT」分析演習を行った。学習・生活・折衝・組織貢献の4能力の育成を図ってきた。
- 経験や職層に応じた研修として、現在本校の東京教師道場教諭1名(数学)、足立区授業力リーダー1名(社会)による研究授業を行い、区、都、国の研究の推移を積極的に校内に伝え、授業改善に生かした。

重点的な取組事項－4 教育環境の整備

- 学校図書館の充実では、学校図書館支援員の配置により格段にその環境は向上した。本校の学校図書館の課題は図書館自体の面積が狭く座席数が24席しか確保できないことである。そこで、第2閲覧室を設け整備した。昼の利用生徒は、平均24.9名(9月期)で満室状態となっている。3名の学校図書館ボランティアと図書館支援員は、校長・副校長と給食をともにする「ランチミーティング」により学校との連携態勢を図っている。
- 施設・設備・校内掲示の充実については、美術科担当教員が中心となり、生徒の作品掲示が絶えることのないよう配慮した。少人数授業に関わる教室には、学習意欲を喚起する学習資料を配置するなど、学習環境の整備にあたった。
- 放課後学習教室は、毎週水曜日の他、試験1週間前は連日開室した。夏季休業日には、4週間を「学習教室」として開室し、大学生の学習支援員を配置した。利用生徒は、延べ1224名(12月末現在)に至る。

重点的な取組事項－5 豊かな成長を図る地域協働方の学校経営の推進

- 小中連携については、「小学校フェスタへの参加(よさこい、ボランティアスタッフ等)」「生徒会による出前学校説明会」「職場体験学習」、「部活体験(本年度はインフルエンザにより延期)」、「少年消防隊の演習」等を実施した。
中高連携では、都立足立工業高校での「ものづくり体験学習会」(5回)を実施した。
- 地域連携ボランティアの推進については、「足立区ボランティアまつり」「西新井住区まつり」「西新井地区対親と子のふれあい音楽祭」「第五地少協運動会」「環七浄化作戦」「西新井中学校避難所訓練」「西新井第一小学校避難所訓練」「保護司会明パレード」「西新井よさこいフェスタ」「西一小フェスタ」「西二小まつり」「フラワーボランティア」「全校美化ボランティア」「足立区総合防災訓練」「消防合同点検訓練」以上、参加生徒数延べ836名(10月末)により、青少年委員、地区対、地元消防団等との連携を深めている。
- 学校関係者評価については、本校開かれた学校づくり協議会会長、PTA会長・副会長、同窓会長、青少年委員、体育指導員、地域協力者、および校長・副校長の計10名による学校関係者評価部会を設け、学校経営計画の説明、自己評価書の提示、評価部会の意見集約を、求めていく。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上

○平成24年度完全実施に向け、各教科でその趣旨を生かした研修を深めていく必要がある。また学習指導と生活指導を両輪として「話を聞く態度」「規律を守る態度」「挨拶」の指導は、今後も不可欠と考えている。

重点的な取組事項－2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

○構成的グループエンカウンターやコーチングなど、教育相談に軸を置いた生徒指導は、今後もすすめていかなければならないが、広汎性発達障害等、教育相談のレベルをこえた対応も考えている。今後は、医療関係に広げたネットワークを構築していく必要がある。

重点的な取組事項－3 教職員の専門性・資質・人間性の向上

○本校では教科をこえた授業改善プロジェクトチームがある。研究授業を実施する前には、必ず「事前検討会」を開く。教科をこえた検討会は、教員の授業改善への意識高揚にもつながり、今後も広げ、常に課題をもって資質向上にあたる研究態勢を整える。

重点的な取組事項－4 教育環境の整備

○本年度は「体育館耐震工事」「外壁改修」が終了した。また「学校図書館の整備」「展示作品の充実」も進んだ。共有部分の整備の他、各学級担任による環境整備も進んだ。生徒会では「足立区一きれいな学校」を呼びかけている。さらに工夫を凝らした学校環境整備にあたりるとともに、生徒の作品掲示が絶えない学校環境を目指す。

重点的な取組事項－5 豊かな成長を図る地域協働型の学校経営の推進

○地域連携型の各種ボランティア活動では、生徒に「良かった」と思える経験をさせたい。そのためにはどうしても事前・事後の周到な指導、引率が必要になってくる。特に生徒会担当教員の負担への配慮をしながら、生徒の活動範囲を確保していく。

○学校関係者評価については、今後も研究を重ね、目標の重点化、取り組みの可視化を図り、学校の組織的・継続的な取り組みをめざす。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、休日開催の授業参観や170名の生徒・保護者・地域・教員が参加した「全校美化ボランティア」、「親睦ソフトボール・バレーボール大会」等、保護者や地域の皆様が学校に関われる企画を準備しております。また、「学校だより」は町会・自治会の回覧板を活用させていただき、ホームページも毎日更新しております。どうぞ、学校行事や保護者会、イベント等には、積極的にご参加ください。

新年度も、本校では、「学校」「家庭」「地域」による協働態勢を推進し、教育課題その他、学校運営上の諸課題に対応していきたいと考えています。「知」「徳」「体」のバランスのとれた生徒の発達のためには、家庭での生活習慣の確立が欠かせません。各ご家庭では、引き続き早寝・早起きや朝食の摂取など基本的な生活習慣の確立に向けて、ご協力をお願いします。

一方、継続的な家庭学習の習慣化は、次年度の本校の重要な課題であると考えています。

次年度も、ご理解、ご支援のほど、お願いいたします。

2. 平成21年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
分かる授業・達成感のある授業	新学習指導要領全面実施への対応。	概ね達成	分かる授業ではA・B評価合計が74.6%である。 (平成21年度足立区学力向上に関する総合調査) 24年完全実施に向け、年次毎の目標を達成する。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
校内研修会の充実	研究授業は校内研含め5回	校内研修、改善プロジェクト研究授業(自主研修含む)	年6回、6回 年11回	言葉の在り方指導は今後も課題	◎
言語活動の充実	人間尊重。 知的好奇心高揚。	グループエンカウンター その他、各教科で実施。	概ね達成	意図的な言語指導が必要。学習の基本は知的好奇心の高揚にある。	△
家庭学習・放課後学習充実	家庭学習の定着。	毎週水曜日の「放課後学習教室」 「家庭学習の指導の在り方」をテーマに校内研修	放課後学習は1,224名 (1月末現在) 家庭学習定着には課題。	家庭学習については今後も課題	●

重点的な取組事項－2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
安全・安心・充実の学校生活の基盤整備	不登校生徒数の半減。	不登校は微減であり、半減には至らない。	手だてを講じているが不登校生徒の減少は、次年度も課題である。スクールスタッフとの連携も有効である。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
未然の生活指導の強化	各学年での実施	エンカウンター、コーチング等の導入。	全学年で実施できた。	生徒間、生徒・教師間の交流に生かした	◎
花と歌と挨拶いっぱい運動	花コン 合唱コン 全生徒挨拶	植栽活動 全教員による校歌指導 全教員による挨拶指導。	区優良賞 合唱コンクール 毎朝の挨拶指導	挨拶については、当番で全教員と多くの保護者が参加。	◎
教育相談態勢の強化	不登校生徒の登校復帰。	悩み事相談実施。 SC・諸機関と連携強化	年2回実施 新たに登校支援員も連携	特に登校支援員の働きは大きい。不登校生徒の半減は未達成	△

重点的な取組事項－3 豊かな成長を図る地域協働型の学校経営の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
実践的課題解決に取り組み、自らの職能成長を図る	「授業内容は理解」「とても分かる」「すこし分かる」が70%以上	1年 93.7% 2年 72.9% 3年 67.1% 全体 74.6%	授業での反応は向上したが、基礎学力の定着・向上が課題である。学年進行に伴い、減少傾向が見て取れる。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教科及び領域の授業研究	日々の授業の工夫・改善。	新学習指導要領をふまえ授業改善の実施。	相互授業観察週間年2回。先行実施教科で研究授業	24年完全実施に向け、移行2年目の課題を明確にする	○
○意図的・計画的OJT推進。	学習・生活・折衝・組織貢献能	4能力育成をOJT推進担当を中心に推進	学校の役割と使命で「SWOT」分析演習	主幹教諭、主任教諭の位置を自覚し、OJTを推進する	○
○経験や職層に応じた研修	西新井中教員として職務従事	リーダー養成研修。若手教職員の育成	教師道場教諭授業力リーダー教諭の成果を校内に伝達	この2年間で初任者が4名(期限付任用含む)若手の指導態勢の確立を課題とする。	◎

重点的な取組事項－4 教育環境の整備

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
潤いのある学校環境づくり	未使用スペースの整備と積極的活用	第2閲覧室、SC室、学校図書館の充実、学習室整備は完了。	限られたスペースを有効活用できた。多目的室整備及び、和室新設をぜひ進めたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校図書館の充実	利用生徒の50%増加	図書館支援員、ボランティア、教員の連携態勢 校長・副校長と給食を一緒にとり「ランチミーティング」	格段に向上 第二閲覧室新設。利用数は平均24.9名で満室状態	本校学校図書館の課題は面積が狭く座席数が24席しか確保できない。	◎
施設・設備・校内掲示の充実	掲示物配慮。円滑な学習活動。	少人数教室、実技教科、カウンセリング室。	生徒の作品掲示が絶えることがない。 少人数教室の整備ができた	校内美化ボランティアでは、共有面の塗装を行っていたが今年は、教室を全面的に塗布した。	◎
放課後学習教室の推進	活用生徒年間1000人以上	学習支援ボランティアの活用	利用生徒は、1,224名(1月末現在)	開室日を増やす。 利用生徒の定常的活用。 学習支援員指導力向上。	○

重点的な取組事項－5 教職員の専門性・資質・人間性の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域とともに歩む学校	地区対等での顕彰対象となる	昨年度の地区対顕彰対象生徒数を上回る予定(1月は顕彰式)	多くの学校関係者より支援をいただき、結果を得ることができた。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携・中高連携の推進	具体的方策の実施	生徒会交流・職場体験・赤ペン先生派遣等。	小学校フェスタ参加、出前学校説明会等。ものづくり体験5回	生徒会出前説明会では中学校一般の説明をし、小中連続、「中一ギャップ」の予防が目的。	○
地域連携ボランティア推進	参加生徒数延べ700人以上	青少年員、地区対、地元消防団等との連携。	参加生徒数延べ974名。(1月末現在)	ボランティア活動は事前指導は重要。新たに始めた「西中少年消火隊」は今後の防災生涯学習の契機となる。	◎
学校関係者評価の実施	学校関係者評価の実施	文科省・区教委ガイドラインに基づき実施	協議会会長以下10名で学校関係者評価部会を設けた	学校経営計画の説明、自己評価書の提示、評価部会の意見集約を進めていく。	○

3. 学校活動全般について

- 基礎的・基本的な学力の定着に向け、授業力の向上を図るため定期的に校内研修に取り組んだ。教科は異なっても組織一丸となって取り組む教職員集団は、本校の貴重な財産である。これを生かし、更に研究・研修の充実を図るとともに、継続的な家庭学習の習慣化を進めていきたい。
- 部活動では、運動・文化の各部活動が目に見える成果をあげてきた。今後は、部活動の教育的役割をふまえ、その参加率向上に向けて組織的に取り組んでいきたい。
- 新学習指導要領で明らかにされた学力観をふまえ、本校の学校教育目標を見直していくとともに、生徒・保護者・地域の方々にも分かりやすい啓発を進め、それぞれの学校運営の参画を得ていく。

